

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 17 日現在

機関番号：23601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23593310

研究課題名(和文) 母親の健康チェックシートの開発と評価ー育児相談への活用と縦断調査の試みー

研究課題名(英文) Child care consultation research that uses "Mother's psychology health check seat"

## 研究代表者

清水 嘉子 (SHIMIZU, YOSHIKO)

長野県看護大学・看護学部・教授

研究者番号：80295550

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：「母親の心の健康チェックシート(以下チェックシートとする)」を用いて、育児相談を行い、その評価を行った。育児相談者は7名であり、2-3名の母親を受け持ち継続的に関わった。育児相談により有意に夫への感謝が上昇し、心身の疲労が低下した。母親は自分や子育てへの気づきや育児相談への満足感があった。母親の語りは、【自分に対する思い】が最も多く、次いで、【夫や周囲の人に対する思い】【子どもに対する思い】であった。相談員は母親に多くの語りを引き出すことができた。また、母親に語らせることによって母親が気持ちに気づき、受け止められる、認められる、安心するなどの有効な支援に支えられていることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to conduct childcare consultations utilizing the Mothers' Psychological Health Checksheet (hereafter, the checksheet) and evaluating the consultations. At the consultations, efforts were made to heighten child care happiness, and mothers were asked to participate in a questionnaire survey aimed at evaluating the consultations after the second consultation. Results were subjected to statistical analysis and qualitative inductive analysis. Changes in responses to questionnaire items after the consultations, compared to before, included a significant increase in appreciation toward the spouse and a significant decrease in mental and physical fatigue. Moreover, mothers felt satisfied with the consultations and their perceptions of self and child care. Challenges included the influence of the structure and expression of checksheet items, as well as the abilities of the consultants, on mothers.

研究分野：母性・助産看護学

キーワード：母親 健康チェックシート 育児相談 縦断調査 育児への自信

## 1. 研究開始当初の背景

具体的なプログラムによる介入とは異なった、母親の健康状態を知るための「母親の健康チェックシート(MWCS)」を作成し、その標準化を試みる。母親にこのシートを配布する際は「子育てママの健康チェックシート」と呼ぶことにする。このMWCSは先行して行われた科研費による研究において既に開発した育児ストレス短縮版尺度(清水・関水, 2010)並びにCHS短縮版尺度(清水他, 2010)に基づいた29項目によって構成されている。このMWCSの標準化には3000件を超えるデータによる分析が求められており課題となっている。700件のデータで試験的に標準値を作成し、S保健センター保健師に家庭訪問での育児相談における活用を依頼している。それらの評価をふまえ、また3000件を超えるデータによる標準化をもってMWCSを完成しその活用と評価に関する研究に取り組む。

この研究はすでに開発した尺度の活用をめざしたものである。育児している母親の心理状態を測定する尺度には、産後うつ病のスクリーニングとしてエジンバラ産後うつ病質問表(EPDS)が広く用いられているが、それらはあくまでも児童虐待の予防の視点にあり母親のポジティブな感情を大切にそれらを積極的に引き出す支援にはつながりにくい。その他のものには、児との愛着をとらえる尺度(中島, 2001)や母性心理質問紙(花沢)、PSI育児ストレスインデックス(兼松ら, 2006)などがあるが、いずれも母親としての役割に着眼しており、とくに児に対する感情をとらえるものである。子ども総研式育児支援質問紙(母子愛育会, 2003)は、子どもの年齢に応じた項目が作成されており、あくまでも対象となる子どもとの関係において回答するも

のとなっている。

今回開発に取り組もうとしているMWCSは、母親の育児で生じるポジティブまたはネガティブな感情に起因する29項目の場面による心理的健康状態を明らかにするものであり、この結果から得られたデータを標準値に基づいた個人プロフィール表によって母親自身が客観的に認識することができる。そして母親の認識を尊重するためにも項目に対する相談を深めていくことで育児幸福感を高め、育児ストレスの対応に結びついた相談が可能となる。

MWCSの開発に加えて、従来の研究では十分に解明されていない育児中の母親の身体状態について心理的健康状態との関係性において検討する。身体状態としては蓄積疲労インデックス(CFSI)項目(越河・藤井, 2002)を選択的に用いた54項目による尺度を用いる。また子育てしていて母親が感じる母親としての自信の実感に関する自由記述データを得る。これらは縦断的に子どもの0歳から3歳(研究期間を延長して5歳)までの成長の期間を追跡する。これらの内容に関する母親の実態とその変化を明らかにしたい。

育児研究において横断的な調査による研究報告は、数多く行われているが、対象者に対する負担や結果を出すまでに時間がかかることなどから縦断研究報告は少ない。このことから本研究の意義は大きい。この研究により、3歳(5歳)までの子どもを育てる母親の、心理的健康状態と身体的疲労感の実態が解明され保健指導や育児支援事業の新たな展開を検討するうえで提言が可能となろう。また、母親の子育しながら自信を得ていく母親の実感としてのプロセスを縦断的にとらえ分析することが可能となる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、育児幸福感を測定する尺度の短縮版の再開発をふまえて、その実用化を目指すことにある。つまり先行して行われた科学研究で作成した育児ストレス尺度短縮版とあわせ、「母親の健康チェックシート Mother's Well-being Check Sheet (以下 MWCS とする)」として完成させる。課題としては MWCS の個人プロヒール表を作成し、育児相談時にその活用を試み評価する。さらに、MWCS に加えて、身体的な疲労感、育児に対する自信に関する、心身の状態を縦断的に追跡し明らかにする。このことにより、育児期にある母親への支援に対する新たな提言を行うものとする。

1) MWCS、CFSI (54項目選択) 育児に対する自信に関する質問紙調査; 3か月、1歳6か月、3歳の時点での記名式縦断調査を進める。本科研は5年間であるため、27年春の段階で回収できた対象の5歳児健診まで調査は引き続いて継続する。

### 3. 研究方法

2) MWCS を用いた育児相談介入研究のための準備; MWCS の 700 件データによる仮標準値による活用を S 保健センター母子家庭訪問で 10 件程度試用を依頼しその評価を行う。保健師に対するアンケート調査を実施し分析する。さらに、過去に行われた尺度調査のデータを洗い出し 3000 件程度のデータによる標準化の手続きを行う。MWCS の標準化に基づいた個人プロヒール表の作成のための分析を行う。

3) MWCS を用いた介入研究開始; MWCS が完成したところで、本学連携研究員による家庭訪問による MWCS を活用しての相談介入を行う。スタートに当たっては担当者による相談介入に差が出ないよう MWCS の活用

についてはマニュアルを作成し共有しておく。1人約6件とし、計30件のデータを集める。相談時にはテープによる録音の許可を得る。また、相談は1年間にわたり継続的に6回程度行い、最初の MWCS から最終回の MWCS の評価値の比較並びに活用介入に伴った良かった点や課題などを明らかにしていく。

4) MWCS を用いた介入研究の継続と終了; 連携研究員による家庭訪問による相談介入は2か月に1回程度の頻度で行い、遅くとも3月頃には終了とする。

6) 縦断調査を引き続き実施; 調査用紙の回収をすすめつつ、記名からコード化の作業や、データ入力を進めていく。

### 4. 研究成果

MWCS は、母親の育児で生じるポジティブまたはネガティブな感情に起因する 29 項目の場面による心理的な健康状態を明らかにするものであり、この結果から得られたデータを標準値に基づいた個人プロヒール表によって母親自身が客観的に認識することができる。そして母親の認識を尊重するためにも項目に対する相談を深めていくことで育児幸福感を高め、育児ストレスの対応に結びついた相談が可能となる。実際には高い項目や低い項目に着目しながら母親の気持ちを引き出していく。この「母親の健康チェックシート (MWCS)」は基となる尺度を作成する段階で 0-6 歳の母親を対象としており、育てている子ども複数であっても一人の母親に着眼している点で、特定の子どもとの関係において母親が回答するというより、子育てしている母親に着目した現実的なツールである。

母親と相談者が各下位項目得点を個人プロヒール表に基づいて確認しながら相談を進めた。事後評価やその後の経過などのデ

ータを集積することで MWCS を育児相談に活用することへの提言を行った。また、相談以外の方法の活用を検討した。とくに本 MWCS が育児幸福感と育児ストレス尺度で構成されていくことから、MWCS を活用することでさらなる育児幸福感を高め、育児ストレスへの対応が可能となる。育児幸福感を高めることはさらなる母親の幸福感を高めていくことに通じていることが明らかにされており（清水・遠藤ら，2007）、MWCS の作成と活用は意義がある。この研究により、3歳(5歳)までの子どもを育てる母親の、心理的健康状態と身体的疲労感の実態が解明され保健指導や育児支援事業の新たな展開を検討するうえで提言した。また、母親の子育しながら自信を得ていく母親の実感としてのプロセスを縦断的にとらえ分析することが可能となる。

現在 2 編の論文を投稿中である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

1) 清水嘉子 乳幼児を育児している「母親の心理健康チェックシート」の作成 母性衛生 VOL54 N04 p580 - 587 2014.

2) 清水嘉子 生後 3 か月の子どもをもつ母親の育児への自信 - 育児幸福感、育児ストレス、蓄積的疲労、属性の検討 - 小児保健研究 VOL72 N05 p672-679 2013.

3) 清水嘉子・佐々木美果・小川紀子・塩澤綾乃・宮原美知留・赤羽洋子・阿部正子・藤原聡子「母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談における母親の語り母性衛生 VOL56 N01 p146 - 153 2014.

4) 清水嘉子「母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談による育児幸福感を高める働きかけの評価 小児保健研究 VOL74 N01 p136-143 2015.

5) 清水嘉子・佐々木美果・塩澤綾乃・宮原美知留・赤羽洋子・阿部正子・藤原聡子「母親の心の健康チェックシート」を用いた育児相談による働きかけの対応 日本助産学会誌 Vol29 N02 p 272 282

2015.

6) 清水嘉子 生後 1 歳 6 か月の子どもをもつ母親の育児への自信 小児保健研究 VOL74 N03 p453-459 2015.

〔雑誌論文〕(計 12 件)

清水嘉子「育児幸福感」を高める 母親支援の新しい形 医学書院保健師ジャーナル VOL68No4-12, VOL69No1-3 2012.4-2013.3

母親の育児幸福感を高めるための発展的取り組み 保健師ジャーナル VOL69No3

〔学会発表〕(計 3 件)

清水嘉子 育児している母親の健康チェックシートの開発第 13 回日赤看護学会於駒ヶ根 2012.6

清水嘉子・佐々木美香・塩澤綾乃・阿部正子・藤原聡子・宮原美知留・赤羽洋子・小川紀子「母親の心理健康チェックシート」を活用した育児相談研究第 54 回母性衛生学会於 大宮 2013.10

Yoshiko Shimizu・Mika Sasaki・Ayano Shiozawa・Michiru Miyahara・Yoko Akahane・Masako Abe・Satoko Hujiiwara・Ogawa Noriko・Nakazima Tomiko

Applying the “Mothers’ Mental Health Check Sheet” to Childcare Counseling 6<sup>th</sup> National Mother Baby Nurses Conference September 8-11, 2013

Las Vegas Nevada

〔図書〕(計 2 件)

育児幸福感 育児で感じる幸せな気持ち p1-259 東京図書 2016.4

いきいき子育て手帳 p1-79 東京図書 2016.4

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.nagano-nurs.ac.jp/president/shimizu.htm>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

清水嘉子 (SHIMIZU Yoshiko)

長野県看護大学 看護学部 教授

研究者番号 80295550

##### (2) 研究分担者 なし

##### (3) 連携研究者

遠藤俊子 (ENDO Toshiko)

京都橘大学 看護学部 教授

研究者番号 00232992

藤原聡子 (HUJIWARA Satoko)  
長野県看護大学 看護学部 准教授  
研究者番号 00285967

塩澤綾乃 (SHIOZAWA Ayano)  
長野県看護大学 看護学部 助教  
研究者番号 20551435

赤羽洋子 (AKAHANE Hiroko)  
長野県看護大学 看護学部 助教  
研究者番号 50405122  
(2015年3月退職)

宮原美智留 (MIYAHARA Mitiru)  
長野県看護大学 看護学部 助教  
研究者番号 90438177  
(2015年3月退職)

松原美和 (MATSUBARA Miwa)  
長野県看護大学 看護学部 助教  
研究者番号 40405121  
(2012年3月退職)

阿部正子 (ABE Masako)  
長野県看護大学 看護学部 准教授  
研究者番号 10360017

佐々木美果 (SASAKI Mika)  
長野県看護大学 看護学部 助教  
研究者番号 80620062